Kraków

クラクフ
三日間の旅

一度来たらまた来たくなる街の
雰囲気を味わってみませんか。

織物会館

聖マリア大聖堂

ヴァヴェル

United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization

Organizacja Narodów
Zjednoczonych
dla Wychowania,
Nauki i Kultury

Historic Centre of Kraków
inscribed on the World
Heritage List in 1978

Historyczne Centrum Krakowa
wpisane na Listę Światowego
Dziedzictwa w roku 1978

皆様
多彩な伝統と多様な遺産が息づく街、ポーランドの歴史が凝縮されたレンズを通して映し出されるクラクフへようこそ。市内の大部分は 45 年以上にわたってユネスコの世界遺産リストに登録されており、ここを短期間訪れるだけでも、ここに建ち並ぶ建物が特別な保護を必要とする貴重建築物である由縁が分かるでしょう。また、それらに触れ合い、美しい通りをゆっくりと歩くことで、何世紀にもわたって都市構造がどのように変化してきたかを実感できます。
その一方で、ヨーロッパで最も多様性に富んだ地域の一つであるマウォポルスカ県の首都として、クラクフは未来を見据え、常に発展を続けています。クラクフには、数多くの公園や庭園でリラックスしたり、国際的なフェスティバルからユニークなコレクションを備えた親しみやすい美術館まで、豊かな文化体験を提供し、あらゆる年齢層の訪問者が楽しめる幅広いエンターテイメントが開催されています。クラクフの必見スポットからあまり知られていない穴場の観光スポットまで、さまざまな方法で探索してみましょう。徒歩、自転車、公共交通機関、さらには... ヴィスワ川をセーリングすることもできます。
充実した一日を過ごした後は、ぜひヴァヴェルの美食、特に世界中のグルメの心をつかむ郷土料理を満喫してください。
皆様の素晴らしい滞在をお祈りしています。

アレクサンダー・ミシャルスキー
クラクフ市長

クラクフ三日間の旅

観光するときに、1週間かけて訪れる価値のある場所に、わずか数時間しかいられないことがよくあります。多くの場合、人々はわずか3日たらずで観光使用とするのですが、実はその都市をより詳しく知り尽くすには数か月はかかります。それで、人々は、たまたま選んだ旅レポのアドバイスに頼ったり、ガイドブックをざっと読んだりするのです。なぜなら、「週末の…」というタイトルのガイドブックでさえ、１００ページ以下の本はなく、小さい字で細かく説明がされていて、最後まで読む気が失せるからです。そのため、旅行者は写真や動画を撮ることで「時間を止めて」、**遠くからでもいいから、最も重要なものをすべて見ようと観光スポットを駆け回るのです**。このようなツアーでは、疲労感で覆われたぼんやりとした記憶と不満足な気持ちだけが残ります。

私たちが今回、クラクフを訪れる人々のためにこのパンフレットを作成した理由はなんでしょうかまず、これを読んだ観光客の方々が、**ユネスコ世界遺産に登録されている都市クラクフを**3日間で徹底的に観光できるという保証はありません。なぜなら、見どころがたくさんありすぎるからです。数多くの記念建造物が、この都市の歴史的な構造と豊かな芸術・文化生活を創り出しているのです。

クラクフには、忙しい毎日を送る住民や観光客がふと立ち止まり、のんびりと景色を眺める機会を彼らに無数に与えてくれる不思議な雰囲気があります。しかし、また同時に、短期間でも印象深い真の満足感を得られる唯一の歴史都市だと言えるかもしれません。

そして、まさにそれが今回皆さんに提案したいことなのです。クラクフを眺めながら、時にはのんびりと、時にはイベントでいっぱいな、常にユニークな街の雰囲気を感じてみましょう。さあ、一緒にクラクフを発見しましょう。クラクフでの 3 日間を最高に楽しく過ごす方法を見つけ、なぜクラクフは一度だけでなくまた訪れるべき街なのかを実感してください。

アクセスと気候 快適な暮らし

クラクフへのアクセスは難しくありません。ここは、常に重要な交易路、そして文化と政治的影響の交差点に位置してきました。今日ではポーランドで最も重要な観光地と考えられています。市内には鉄道、道路、航空網が整備されており、クラクフ・バリツェ国際空港は乗客数が国内で第二位の規模を誇る空港です。このことから、クラクフはヨーロッパのこの地域で最もアクセスしやすい都市の1つとなっています。その他のメリットとしては、**A4高速道路へのアクセス**や、航空会社による世界各地への乗り継ぎのよさなどが挙げられます。クラクフ空港に着陸後は、特別列車で空港から**市内中心部までわずか数分で移動できます**。クラクフには公共交通網も発達しており、ユーロスタットによると、**ヨーロッパとポーランドで最も評価の高い交通網だとされています**。これにより、世界各地からやってくる観光客に多くの機会が開かれます。クラクフでの滞在は、訪問の目的や宿泊場所だけでなく、様々なバリエーションが考えられます。観光旅行は天候、曜日、季節によっても異なります。ポーランドの冬は気温が -20℃ を下回ることがあり、夏には気温が 30℃ を超えることがよくあることも考慮しておくことが大切です。

これは地理的な影響によるものです。**クラクフはマウォポルスカ県の首都です**。マウォポルスカには高原の山岳地帯で、数多くの保養地、レクリエーション、アグロツーリズムリゾートなどがあります。そのため、夏でも冬でも、街を訪れ、山で休暇をとるという組み合わせが可能です。

クラクフ・バリツェ国際空港

快適な生活

クラクフはポーランドで最高の観光インフラを備えており、あらゆる目的を持**つ観光客のニーズに適応しています**。中心部とその周辺には多くの高級ホテルが建ち並んでいます。一方、中央市場広場のすぐ隣には小さくて居心地のいい宿泊施設がたくさんあり、朝食後すぐに観光を始めることができます。特にクラクフのカジミエシュでは、さまざまなホステルやアパートメントが人気です。一年中いつでもお得な価格を見つけることができます。これらのほぼ全施設において、クラクフの多くのカフェやレストランと同様にインターネットアクセスが無料で提供されています。市内の特定のエリアでは無料の無線**インターネットアクセスが利用で**きます。公式都市アプリケーション Kraków.pl などの**無料の携帯電話アプリで**は、自分で探索するためのツールが提供されています。ウェブサイトwww.krakow.travelから市内の滞在を計画することもできます。街を観光するためのさまざまなアイデアと、あらゆるタイプの観光客に役立つ大切な情報がたくさん盛り込まれています。ここには、視覚障害や運動障害を持つ人々などの**特別なニーズを持つ人々のためのルートである「障害を持つ観光客のためのロイヤルルート」**が作られました。クラクフの特徴的な場所は、12箇所あります。バルバカンと聖マリア聖堂のブロンズの彫刻には、記念碑の説明がポーランド語と英語、および点字（ポーランド語と英語）で用意されています。

クラクフの旧市街とカジミエシュは、他のどこにも類を見ないほど観光名所が集中していることで知られています。それらの観光名所は徒歩で簡単に移動でき、必要に応じて、便利な路面電車網を利用すれば、2地点間を短時間で移動することができます。ラッシュアワーの時間帯は、タクシーで移動するよりも効果的な方法です。主要な停留所には券売機があり、カードまたは現金で購入できます。

自動販売機は、定期的に更新される基本的な観光情報の配信もしています。

頁 障害者用モデル

www.krakow.pl
www.krakow.travel

散歩　その 1

中央市場広場

大規模なクラクフ中央市場広場は、間違いなく世界的に見ても独特な観光地です。ここは世界中で知られており、毎日多くの観光客で賑わいます。また、30年にわたって都市の公共空間の活性化に取り組んできたProject for Public Spacesという組織により「世界最高の市場」の1つにも選ばれています。

中央市場広場と旧市街を形成する道路網は、1257年にマクデブルク法に基づいて都市が建設されたときに設計されました。市場広場の真ん中に位置す**る織物会館は**、今日もなおその姿を変えず残っています。ここは何世紀にもわたって貿易の場となってきましたが、今日では地元のお土産をここで買うことができます。織物会館は 100 年以上にわたりクラクフ国立博物館の本館となっていましたが、現在はその支部の一つとなっています。この景観は、小さくて特徴的な**聖ヴォイチェフ教会**（重要な考古学的発見の地）、19世紀に取り壊された市庁舎の寂しげな塔、そしてもちろん、街を見下ろす高い塔を持つクラクフのシンボルの **1 つである聖マリア教会**によって引き立てられています。ここには、ニュルンベルクの巨匠ファイト・シュトースが生涯をかけて創作した作品があります。**記念碑的な祭壇には、毎日何千人もの観光客が訪れます**。クラクフの伝説や伝統、そして多くの歴史的出来事の一部は、中央市場広場と関連しています。

中央市場広場はヨーロッパ最大の中世の広場で、その大きさは 200 m x 200 m です。その規模の大きさと、本物の建築と都市の配置が現存していることから、世界的にも珍しい場所だと言われています。

中央市場広場の下には、観光ルートのある博物館があります。ここは、深さ5メートルに位置し、面積約3,500平方メートルのこの博物館では、「クラクフのヨーロッパ的アイデンティティの足跡をたどる」と題した現代的なマルチメディアの展示が行われています。この展覧会は、日々入場者数記録を更新しており、すでに400万人を超える来館者が美術館を訪れています。

ここでは、聖マリア教会の塔の1つから毎時間演奏されるラッパの音、6 月のレイコニク・パレード、射撃王の即位式、クラクフのキリスト降誕シーンコンテストなどが行われます。中央市場広場周辺のほとんどすべての建物は、何世紀も前に建てられたものです。ここには、クラクフ博物館、国際文化センター、書店、ショップ、レストラン、カフェなどが入っています

中央市場広場を歩き回る際には、建物のペディメント、ポータル、窓、屋根に注目してみるといいでしょう。建物の内部には、よく保存され、慎重に再現された建築の細部を見ることができます。広場の周囲にはカフェやレストランの庭園がありますので、ぜひ立ち寄ってみてください。最も厳しい冬の時期には短時間の休止をすることがありますが、朝から夜遅くまでほぼ一年中営業しているところがほとんどです。寒い冬には、常連客は**クラクフ中心部の特徴的な地下室**に移動します。ここではコンサートが行われており、普段はジャズを聴くこともできます。長年にわたり活動しているミュージシャンのコミュニティのおかげで、クラクフは**ポーランドのジャズ**の中心地となったからです。ここではイブニングクラブやナイトクラブライフも盛んです。また、クラクフ市内には13万人以上の学生がいる大学都市でもあります。

市場は、時に人々の出会いの場にもなります。サマーフェスティバル、コンサート、フェア、プレゼンテーション、その他様々な娯楽が満載です。クラクフの人はしばしば「アダシュの下」、つまりアダム・ミツキェヴィッチの記念碑の下で待ち合わせをします。

散歩　その 2

旧市街

クラクフの独特の雰囲気は、主に街の配置によって成り立っています。**植物**に囲まれた地区は、一般的に市街地の中心部であると言われています。ここは、緑豊かな一帯であると同時に都市公園でもあり、バビルカンからヴァヴェルの丘まで両方向に広がっています。植物は不規則な楕円形に配置され、ヴィスワに向かってわずかに伸びています。19世紀に、旧クラクフを囲む城壁が取り壊された場所に建てられました。地区にある建築物がほぼすべてが記念碑

植物園内にまっすぐ引くことができる最長の線は、ロイヤルルートにほぼ沿って走っています。これは最も古く、おそらく最も有名な観光コースです。

であるエリアには、1500 x 800 mの範囲に数十の博物館やギャラリー、12の教会、劇場、映画館、書店、アンティークショップ、ショッピングモールが建ち並んでいます。

観光客は、たくさんのショップ、何百ものカフェ、レストラン、パブを自由に利用できます。これらすべては、小さな町の魅力と関連しています。そのため、約150万人の住民を抱えるクラクフ都市圏の規模に観光客が驚かされることが多いのです。都市自体の人口は約80万人です。

市内中心部は観光が容易にできるように構成されています。植物園内で最長の直線を引くと、最も古くおそらく最も有名な観光ルートであるロイヤルルートにほぼ沿っています。これは、ヤン・マテイコ広場の聖フロリアン教会からフロリアン門まで続きます。武器庫は、強力な防御壁の唯一よく保存された部分に位置しています。現在は、クラクフの国立博物館の支部であるチャルトリスキ王子博物館の一部となっています。さらに、このルートはフロリアンスカ通りに沿って中央市場広場まで続き、グロツカ通りとカノニツァ通りはヴァヴェル城に向かっています。

ロイヤルルートは、かつてのポーランドの首都が最も栄華を誇った時代と結びついた、歴史ある伝説の道です。

散歩　その 3

ヴァヴェル

歴史的なヴァヴェル丘陵へは、通常、短くて狭いカノニツァ通りを通って行きます。ここは市内で最も重要で、最も古く、また最も美しい通りの一つで、何世紀にもわたってその外観は変わっていません。本物でありながら生き生きとしています。カノニツァ通りは、21世紀のクラクフで起こっている未来志向的な変化の一例として挙げられます。大規模な改修と修復プロジェクトにより、古い長屋の真の美しさが層状に表されています。

城内には、王室の部屋、東洋美術と戦利品のコレクション、フランドルのタペストリーのユニークなコレクションなど、**必見の展示が多々**あります。これらは、ポーランドの地にキリスト教が千年以上存在していたことを証明する考古学的発見でもあります。

ポーランドの歴史が見守る、**王家の墓がある大聖堂**も見応えのある観光地です。巨大なジグムントの鐘がヴァヴェルで鳴るのは、国と都市にとって最も重要なイベントの時だけです。この特別な場所を探索するには、最低でも半日はかかるでしょう。ヴァヴェル城を観光する時間が十分にな炒め、観光は次回にしようと思っ

王家の墓がある大聖堂も訪れる価値があります。歴代統治者の墓地を見ると、国全体の千年の歴史がわかります。

た方も、城の門は、展示会よりもずっと長く開いているため、ぜひ夕方にでも城に入ってみるといいでしょう。ここから、非常に美しいアーケードのある中庭、大聖堂、ヴィスワ川の眺め、そして対岸に建つ素晴らしい建物、近代的なICEクラクフ国際会議場と、有名な収集家フェリクス・「マンガ」・ヤシェンスキ氏のコレクションからの日本美術を展示する日本美術・技術博物館Manggha を眺めることができます。川岸に降りると、ヴァヴェルの竜の彫刻と竜の巣穴の入り口が見えます。ここは家族で散歩するのに人気の場所です。6月には、ここで聖ヨハネ祭が開催されます。これは、スラブ人の生活にまつわる素晴らしい屋外イベントです。

都心部の設計を見ると、城壁に覆われたエリアは中央市場広場の面積に匹敵する大きさであることがわかります。

散歩　その 4

カジミエシュ

旧市街地区には、かつてユダヤ人地区だったカジミエシュという場所があります。ヴァヴェルの丘から降りて、ストラドムスカ通りに沿ってディエルタ通りとの交差点まで行きます。第二次世界大戦の悲劇とナチスの侵略者によるユダヤ人の絶滅の後、カジミエシュは何十年もの間、放棄され、廃墟と化しました。

都市のこの地域の**現在の激動の発展は、20世紀の80年代後半から90年代初頭にかけての政治的変化によって決定づけられました。カジミエシュは、オスカー賞を受賞したスティーブン・スピルバーグ監督の映画「シンドラーのリスト」の一部で使われ、映画館のスクリーンに登場しました。90年代初頭から開催されている世界的に有名なユダヤ文化祭は、かつてここに住んでいた人々の歴史と伝統に焦点をあてて行われます。その枠組みの中で、コンサート、ワークショップ、講義、展示会が開催され、ポーランドや世界中から観客が集まります。今日、この地区の再生と新しい側面について興味深いエピソードがあります。**

カジミエシュは、異なる民族や宗教が共存してきた何世紀にもわたる伝統の生きた証です。何世紀にもわたって、この場所では2つの国と2つの偉大な宗教が共に存在してきました。ここはシナゴーグからそう遠くないところに、聖カタリナ教会と聖体拝領教会があり、聖スタニスワフの祝日には、「岩の上」の正パウロ教会の行列が行われます。

カジミエシュのいたるところから、何世紀にもわたるクラクフの住民のポーランド系ユダヤ人の歴史が私たちに語りかけています。それは、狭い通りやマーケット広場のレイアウト、小さな長屋、シナゴーグ、ユダヤ人墓地のレイアウトなどから感じられます。

ここのカフェ、クラブ、ギャラリーには、中央市場広場とその周辺が「観光客用」になりすぎていると思っている人々が集まります。誰もがカジミエシュの独特な個性を自身で発見するのです。高級ホテルやレストランの周りには、今でも職人の工房、オリジナルのお土産が並ぶショップ、アートギャラリーがあります。それを体験するには、ヴォルニツァ広場やヨゼファ通りを散歩したり、シェロカ通りを訪れたりする価値があります。シェロカ通りは今でもユダヤ文化祭の象徴的な中心地です。カジミエシュは、アンティークやさまざまな装身具を愛するすべての人に特に高く評価されている場所でもあります。ノヴィ広場と、近くのグジェグシュキのマーケットホールの下では、毎週日曜日に骨董品市が開催されます。

カジミエシュとポドグジェは、神父ラエトゥス・ベルナテックにちなんで名付けられた美しい歩道橋で結ばれています。これは、旧ポドグルスキ橋の跡地にあります。ヴィスワ川の両岸にある橋台の形をした遺跡が、その建設に使用されました。歩道橋のおかげで、歩行者や自転車はヴィスワ川の一方の岸からもう一方の岸に容易に渡ることができます。こうして、カジミエシュのモストヴァ（ポーランド語で橋という意味）通りの名前は、文字通りの意味を取り戻し、この印象的な歩道橋は地区間のより緊密な絆の象徴となりました。

散歩　その 5

ポドグジェ

クシェミオンキ（白い石灰岩）のふもとの美しい場所であるポドグジェは、かつてカジミエシュ町の右岸に位置していました。1784年、オーストリアの皇帝ヨーゼフ2世太公は、ポドグジェを自由王立都市と宣言しました。

ポドグジェの多国籍で寛容な社会は、起業家、製造業者、職人を引きつけました。彼らはその技術と知識を活かして都市の発展に貢献し、「クラクフ周辺の自治体の真珠」としての評判を築きました。20世紀初頭、当時クラクフの著名な市長だったユリウシュ・レオは、これをポドグジェと呼んでいました。彼の努力のおかげで、1915年7月4日にクラクフとポドグジェの関係が実現しました。第二次世界大戦は、ポドグジェとその住民の歴史に悲劇的な影響を及ぼしました。この地区がゆっくりとルネッサンスと復活を遂げたのは、ここ数十年のことです。

この地区の中心部に行くには、**ヴィスワ川を渡る歩道橋と自転車歩道橋が最適です**。右側の歩道橋からは、「アレクサンドロヴィチョフ」または「パリジャン」（1906年）と呼ばれる、2つの出窓で飾られた長屋が見えます。左側にある新しい Cricoteka 本社の近代的な建物には、現在のクラクフで最も古い施設である旧ポドグジェ発電所（1900 年）の建物が組み込まれています。

丘陵地帯は親しみやすく、緑豊かで、**同時に神秘的な雰囲気を醸し出しています**。この雰囲気は、ポドグルスキ市場広場にある聖ヨセフ教会のネオゴシック様式のシルエットからも感じられます。その建物は記念碑的な要素を持っています。しかし、これは広場の珍しい三角形の形状から生じる錯覚によるものです。ポドグジェの最大の功績の一つは、有名な公園です。**ヴォイチェフ・ベドナルスキ公園は**、地元の学校の校長であり社会活動家であったベドナルスキ氏によって、かつての採石場の底に設立されました。今日この美しい公園には、彼の名前がつけられています。これは、**ヨーロッパにおけるポスト産業化後の土地開発の最初の一例**として挙げられます。近年、全面的な再開発を経て住民に開放されました。公園は壮大な別荘と緑地に囲まれており、「庭園都市」として設計されたポドグジェの一部となっています。ポドグジェをより深く理解し発見するには、クラクフ博物館の分館であるポドグジェ博物館を訪れるといいでしょう。

この近くには、ポドグジェの歴史の象徴であるラソタの丘があります。その麓には、1790　年頃に設立された歴史的な旧ポドグルスキ墓地があります。丘の上には11世紀に建てられた神秘的な**聖ベネディクト教会**が建っています。この小さな寺院には、今日に至る

まで罪と残酷な統治のゆえに安息を得られない王女の幽霊が出るといわれています。

教会の隣には、砲塔の形をしたオーストリア要塞31「聖ベネディクト」のユニークな建物があります。ここからは**クラクス塚**を見ることもできます。この墳墓は西暦7世紀頃に建てられたもので、長い間、クラクフの伝説的な創設者の墓であると信じられてきました。丘の頂上からは街のパノラマを眺めることができ、晴れた日にはタトラ山脈も見ることができます。塚の麓には、現在は閉鎖されているリバナの採石場があります。第二次世界大戦中、ナチスのポーランド人強制労働収容所（Baudienst）がここにありました。スティーブン・スピルバーグ監督の「シンドラーの手紙」の収容所シーンがここで撮影され、その痕跡が今も残っています。採石場の底には、墓石のレプリカが並ぶ収容所の道路など、映画の装飾が今でも残っています。

ポドグジェには悲劇的な歴史を記念する記念碑が数多くあります。ゲット**ー英雄広場は**、ナチスドイツ（1941～1943年）によって設立されたゲッ**トーの創設とその後の解体段階が実際にあった場所です**。ここはタデウシュ・パンキェヴィッチが働いていた「鷲の下の薬局（Apteka pod Orłem）」があり現在は博物館となっています。「諸国民の正義の人物」という勲章を授与されたこのポーランド人は、迫害されているユダヤ人を支援しながら、自らゲットーで生活し、働きました。著者は、「クラクフゲットーの薬局」という本の中で、その暗黒時代の思い出を書いています。ゲットーの歴史を引き継いだのは、1942年から1945年まで運営されていたナチス強制収容所「プワシュフ」（KLPlaszow）でした。カミエンスキエゴ通りには、収容所の犠牲者を追悼する印象的な記念碑「WyrwanychSerc」があります。一方、リポヴァ通り**4**番地にある**オスカー・シンドラーの工場**の旧管理棟には、現在、ナチス占領下の街の生活を紹介するクラクフ博物館の支部があります。インタラクティブな展示会「クラクフ – 占領期間 1939～1945」は毎年何千人もの来場者が訪れています。

www.podgorze.pl
www.muzeumkrakowa.pl/oddzialy/muzeum-podgorza

タデウシュ・カントル・アート・ドキュメンテーション・センター CRICOTEKA

Kraków
7
1
8
2
7, 8
3
1 – 中央市場広場
2 – 旧市街
3 – ヴァヴェル
4 – カジミエシュ
5 – ポドグジェ
6 – ノヴァ・フタ
7 – 要塞の道 クラクフ
8 – 一少し違う側からの風景

6
ノヴァ・フタ
7
4
7
5

散歩　その 6

ノヴァ・フタ

1949年、戦後のポーランド人民共和国当局は、クラクフ近郊の田園地帯の肥沃な地域に冶金工場と新しい村を設立することを決定しました。これが、プレショフとモギワです。ノヴァ・フタは、世界におけるポーランドの代表的な村になるはずでした。その明確な都市計画と社会主義リアリズム様式の建築は、地元のルネッサンスとバロック建築構造に基づいていましたが、アメリカの近隣ユニットの概念にも基づいていました。ノヴァ・フタ街道には、古代と現代の歴史、自然保護区（中央広場のノヴァ・フタ草原）、かつての強大な産業の痕跡などがさまざまな場所に点在しています。

ノヴァ・フタは、以前に存在していた30を超える集落の跡地にに設立されました。彼らの文化遺産は、荘園、田舎の建物、宗教的な建物、墓地など、大部分が保存されています。その中には、ウチャノヴィツェにある17世紀のカルヴァン派教会、ルネッサンス様式の貯蔵室（S.グッチ設計）を備えたブラニツキ邸（17世紀）、ブラニツェにある19世紀のバデニ邸などがあり、現在、バデニ邸にはクラクフ考古学博物館の分館があり、地元の発掘調査による膨大な資料が記録されています。ブラニツェからノヴァ・フタの中心部に戻ると、植物の素晴らしい風景が広がる、先史時代の神秘的なワンダ塚（7世紀または 8 世紀）を見ることができます。**ノヴァ・フタの最も貴重な記念碑**もこの近くにあります。**ここは13世紀のシトー会修道院です**。 休憩する場所には、ザレフ・ノヴォフツキまたはプリラセク・ルシエツがいいでしょう。

ノヴァ・フタの社会主義リアリズム建築の最も興味深く、完全に実現されているのは、「ドゥカーレ宮殿」とも呼ばれるこの敷地の行政の中心地です。一方、セントラルスクエアは、過去70年間の独特な建築の歴史として知られています。広場とそのすぐ近くには、社会主義現実主義建築の典型的な例が見られます。一例として、かつての「シフィアトヴィト」映画館の建物があり、現在はノヴァ・フタ博物館になっています。代表的なバラの通りには、1973年にレーニンの大きな記念碑が建てられ、1989年に取り壊されました。記念碑があった時代、住民は記念碑を爆破しようとしていました。しかし、ノヴァ・フタは単なる社会主義の場ではありません。聖心イエス教会は、1960年4月の劇的な出来事、つまりノヴァ・フタの住民と十字架を守る民兵との衝突を記念しています。ノヴァ・フタの教会は、1958 年（司教に就任）から地元住民に特別な配慮を示したカロル・ヴォイティワの人生に深く根ざしています。20年後、地元の教会はNSZZ「連帯」労働組合の設立と活動、そして1980年代の政権に対する２０世紀のデモにおいて重要な役割を果たした。ここノヴァ・フタでは、当局によって抑圧された人々に援助が提供されました。オーストリアの要塞の遺跡（別の記事で紹介）の他に、クラクフの中心部に戻る途中で、ポーランド航空博物館のユニークなコレクションに立ち寄るのもいいでしょう。博物館は旧ラコビツェ・チジニ空港の敷地内にあり、その独創的な構造が注目を集めています。**ここには250を超える歴史的な航空機とエンジンがあり、博物館のある地域は歴史的建造物に登録されています。**

今日、ノヴァ・フタの住民は自分たちの独特の地域アイデンティティを誇りに思っています。ノヴァ・フタの建築と都市の独自性も認められ、2023年には歴史記念碑の称号を獲得しました。

散歩　その 7

要塞の道

冒険が好きな方は、かつてクラクフを守っていた数多くの要塞をぜひ見学してください。19世紀半ば以来、クラクフはロシアとの国境からわずか7キロしか離れていませんでした。オーストリア人は要塞システムで都市を守ることを決定し、1850年から1916年までの約70年間にわたって要塞を拡張しました。防衛線は当初、現在のチェフ・ビエシュチュフ大通りに沿っていました。かつて要塞の中心だった遺跡は、現在は要塞「クレパシュ」と要塞「ルビチ」の遺跡となっています。技術の進歩により、20世紀が始まる前にはすでに、要塞は役に立たなくなりました。市の周囲では、より近代的な環状構造の要塞の建設が始まり、市内では支援施設の建設が始まりました。

クラクフを見下ろすコシチュシュコ丘の周囲の建物は、かつての第 2 要塞「コシチュシュコ」です。そこには、コシチュシュコ博物館とラジオ局があります 。

第一次世界大戦の勃発時、街を取り囲む防衛線は、コンクリートの壁と天井、装甲塔で守られた、さまざまな種類と目的を持つ32の要塞で構成されていました。後方の建物を合わせると、クラクフ要塞にはおよそ180の建物がありました。1918年、要塞はポーランド軍に引き継がれました。第二次世界大戦後、その建物は徐々に非武装化または破壊されていきました。

かつてのクラクフ要塞には、約70年かけて建てられた建造物が100棟ほど残っています。ヴァヴェル城、聖フロリアン門、バルビカンを備えた防御壁とともに、これらは現代のクラクフ要塞を形成し、この都市の古い防御建築のユニークな遺産をより身近に感じさせる新しい観光ルートとなっています。

TWIERDZA KRAKÓW

現在のノヴァ・フタの地域にも砦が残っています。これらは、ズウォテゴ・ヴィエク住宅団地にある「バトヴィツェ」砦、ピャストフ住宅団地近くの「ミストジェヨヴィツェ」、そして「クシェスワヴィツェ」砦（第二次世界大戦の殉教の地）と前述の「グレンバウフ」です。

コシチュシュコ塚の周囲の建物も、II番とされたかつての要塞であり、コシチュシュコ博物館が入っているという事実を知っている人はあまりいません。すでに述べたラソタ丘（クシェミオンキ）の**砲兵要塞**「聖ベネディクト」についてもここで触れておくべきでしょう。**これは19世紀半ばの要塞の独特な一例です。**

活性化された要塞には新しい機能が追加されています。「ボレク」要塞にはポドグジェ文化センターの支部があり、近くのユゴヴィツェにはクラクフ博物館とスカウトセンターがあります。青少年文化センターは「クジェスワヴィツェ」要塞と「オルシャニツァ」要塞において運営されています。かつての武器庫と射撃場の建物には写真博物館があり、仮施設内には、国内陸軍博物館があります。

クラクフ要塞は、ポーランドで最も興味深く、訪れる価値のある場所の1つとして、数々の栄誉と賞（ツーリスト・プロダクト・オブザイヤーの称号など）を受賞しています。クラクフの要塞の歴史を知ることをぜひお勧めします。

散歩　その 8

少し違う側からの風景

クラクフの市内中心部には、街のパノラマを眺めることができる展望台がたくさんあります。最も重要で、昔から最もよく知られているのはコシチュシュコ塚です。ここには多くの観光客が訪れます。ここからは、歴史的なクラクフと現代のクラクフを一望することができます。丘の頂上から、クラクフのすでに知られている特徴的な要素を見つけてみましょう。**この丘陵はクラクフ最大の観光名所の一つです。**そのうちの2つ、ポドグジェのクラクス塚とノヴァ・フタのワンダ塚は、地元の部族によって建てられた、**キリスト教以前の時代の神秘的な墳墓です。**この土地の古代の住民がこれほどの多大な努力を払うきっかけとなったものは何だったのでしょうか?おそらくこれらは単に支配者の墓なのかもしれません。間違いなく、それらは観測地として戦略的に使用されていたものです。

ヴィスワ川の反対側には、強力なベネディクト会修道院のある集落であるティニエツに到着します。そこでは、毎年恒例のオルガン演奏会など、多くの文化イベントが開催されます。このコンサートには毎年大勢の音楽愛好家が集まります。

近代には、国家的英雄に敬意を表して、このタイプの建造物がさらに建てられました。それは、ソヴィニエツにある前述のコシチュスコ塚とユゼフ・ピウスツキ塚です。最初のものは、ポーランドの領土が3つの占領国に分割されていた時期に建てられたもので、ポーランド人の独立への願望の象徴でした。市内中心部を離れ、ピウスツキエゴ通りに沿って国立博物館の本館と近くのヤギェウォ図書館に向かって進むと、**クラクフのもう一つの名所であるブロニア**に着きます。デンブニキを歩き続けると、ザクジュベクにたどり着きます。現在、ここはクラクフで最も人気の海水浴場とビーチですが、バグリの「リトル　クロアチア」やノヴァ・フタのプジラシェク　ルシエツキ海水浴場も、これに匹敵するほどの素晴らしい所です。

メイン広場から1キロメートル離れたところにある広大な草原、ブロニアは、レクリエーションエリアや集会の場として使用されています。ヨハネ・パウロ2世によりここで行われた教皇のミサには、100万人を超える信者が集まりました。ここではあらゆる種類の祭事が開催されます。ブロニアは、H・ジョーダンにちなんで名付けられた公園や、スポーツクラブのヴィスワとクラコビアの複合施設に隣接しています。ここで特筆すべきは、KSクラコビア1906障害者スポーツセンター100周年記念ホールです。ブウォンからはコシチュシュコの塚が見渡せ、そこからヴォルスキの森も遠くありません。ここは景観価値の高いレクリエーションエリアです。また、動物園、ピウスツキ塚もあり、**近くには美しい親しみやすい公園のあるルネッサンス様式のヴィラ・デキウス邸があります。**ヴィスワ川の反対側には、**強力なベネディクト会修道院のある集落**であるティニエツに到着します。そこでは、毎年恒例のオルガン演奏会など、多くの文化イベントが開催されます。暖かい日には、郊外のウォーキングルートやハイキングコースをお勧めします。5月から9月にかけて、これらすべてはヴィスワ川を航行する観光船のデッキからも眺めることができます。

散歩　その 9

カルチュラル・クラクフ

クラクフは文化の首都であり、ポーランドの歴史的遺産を世界に紹介する場所です。クラクフは、投資の成功例としても有名になりました。これには、新しい博物館、新しいスタジアム、コングレスセンターなどが挙げられます。この勢いは文化生活の発展と密接に関係しています。**クラクフのフェスティバルは、独自のグローバルブランドを築いてきました。** ミステリア・パスカリア、オペラ・ララ、フェスティバル・オブ・ポーランド・ミュージック、サクルム・プロファヌム、サマージャズ・フェスティバル、アンサウンドなど、バロック音楽から現代音楽までの音楽の旅が楽しめ、何千人もの聴衆が集まります。

サクルム・プロファヌム・フェスティバル。写真。クラクフ音楽祭事務所のヴォイチェフ・ワンツェル

クラクフのフェスティバルは 21 世紀に世界的なブランドを築き上げました。

クラクフはユネスコ文学都市の称号を持っています。クラクフでは、ポーランド国内最大級のブックフェアが開催され、また、著名なポーランド作家であるチェスワフ・ミウォシュやジョセフ・コンラッドの後援による文学フェスティバルも開催されます。マウォポルスカ県の首都でるクラクフでは、ポーランドの最高の劇場が神曲祭で競い合います。市内では、オフカメラフェスティバルやクラクフ映画祭も開催されます。この街には、更なる映画を撮影するために、クラクフに魅了された撮影監督が戻ってきます。

ICE クラクフのインテリア

クラクフのユダヤ文化祭と楽しい花輪祭りは、カジミエシュと多文化ガリツィア（オーストリア＝ハンガリー帝国時代にクラクフがあった地域はこう呼ばれていました）の伝統の一部であり、マウォポルスカの首都が一年中ユニークな体験を提供していることを実感させてくれます。

ヴァヴェルの景色を眺めながら

クラクフでの3日間の観光は、街をよく知ることを断念せずに、充実した時間を過ごすことができます。数多くの記念碑、絵のように美しく魅力的な地域、さまざまなレストランやホテル、大学や知的施設は、ビジネス界を魅了するクラクフの強みです。このように、クラクフでは数多くの会議や会議が開催されています。**ヴィスワ川の右岸に位置する ICE コングレス センター**は、ガラス張りのロビーからヴァヴェルとカジミエシュの素晴らしい景色を眺めることができる独特な形状をしており、**モダンでゲストフレンドリーなクラクフのもうひとつのシンボル**となっています。ICEクラクフでは、最大3,000人のゲストを対象としたクローズドイベントが開催できます。1800人を収容できるオーディトリアム・ホールは、ポーランドでもトップクラスのホールで、一流のコンサートの会場としても利用されています。シアターホールや建物の他のスペースでは、数多くの公演、ショー、フェア、フェスティバルイベントが開催されます。これらすべてが街の中心部にあり、空港や高速道路へのアクセスも便利です。イベントのプログラムは以下のサイトに掲載されています。

www.icekrakow.pl

料理とクラブツアー

今日、クラクフはポーランドの地図上で、間違いなく重要な美食観光の中心地としての地位を占めています。これは、クラクフのバーやレストランの顧客の満足度によってだけでなく、有名なフランスの料理ガイドであるミシュランの星などの名誉と賞からも分かります。国内で初めてレッドガイドで2つ星を獲得したのはクラクフのレストランでした。

今日では、人々は人気のレストランや目新しいレストランを訪れるためにクラクフにやって来ます。その理由は簡単です。クラクフは、**ポーランドの他の都市とは比べものにならないほど魅力的な観光地区に、レストラン、飲食店、カフェ、パブ、クラブ**が建ち並んでいます。 それが、グルメの冒険を求める人々をこの街に引きつける魅力です。

この地中海的現象により、ポーランドでは独特のリズムで、社会生活と文化生活が日々活発に過ぎていくのです。学生、ビジネスマン、地元の人々、観光客が、みんな平等に、多言語の喧騒の中で一緒に楽しんでいます。クラクフの料理師たちは、さまざまな国や文化の料理をポーランドの料理の伝統と巧みに組み合わせながら、見事に料理を創り出します。多くのレストランは、ピエロギがポーランド人の世界の料理への最大の貢献であるという国際的な神

ピヴニツァ・ボッド・バラナミでのコンサート中のマレク・ミハラク

クラクフの美食のシンボルは、クラクフ・オブヴァジャネクです。これは、EU認証を取得した伝統的な食べ物です。オブヴァジャネクの店は、クラクフの中心部で簡単に見つけることができます。このパンの歴史とレシピの秘密は、オブヴァジャネク博物館で学ぶことができます。

www.muzeumobwarzanka.com

話を払拭し、伝説的なポーランドのスープ、ソース、ジビエを思い起こさせます。

一方、ピエロギについては、クラクフで独自の大きな夏祭りが開催されます。このイベントでは、シェフたちが想像力を駆使して、一見シンプルな料理に新しい味を創作します。

さまざまな味とその独創的な組み合わせが楽しめることから、クラクフはヨーロッパの美食文化首都と認定されました。マウォポルスカ県の首都であるクラクフは、2019年にこの名誉ある称号を授与された歴史上最初の都市です。

Europejska
Stolica Kultury
Gastronomicznej
Kraków 2019

クラクフで多彩な料理を求める観光客は、この街に満足しないまま街を去ることはないでしょう。市内のレストラン、パブ、クラブは高い水準を維持し、安定した顧客を保持しています。レストランやパブ、クラブの経営者は、独自の特徴的な要素、テーマ性、珍しさや驚きを顧客に提供しています。そして、あらゆる場所でコンサート、展示会、その他のイベントが行われます。

スポーティに観光する

クラコヴィアマラソン、スリーマウンズラン、ポーランド・ツール・ド・ポーランドの決勝レース、**ポーランドで唯一のコルナのマウンテンカヤックコース**、ヴィスワとクラコヴィアのサッカークラブの偉大な伝統と近代的なスタジアムは、長年ファンに知られているこの街のスポーツのイメージを作り出しています。ヴァヴェルを訪れて、文化観光やグルメ観光とスポーツを組み合わせるのは、特に人気のある観光形態となっています。これにより、**ポーランド最大のエンターテイメントおよびスポーツホールを開くことが可能になりました。**TAURONアリーナクラクフはヨーロッパで最も近代的な施設の一つです。

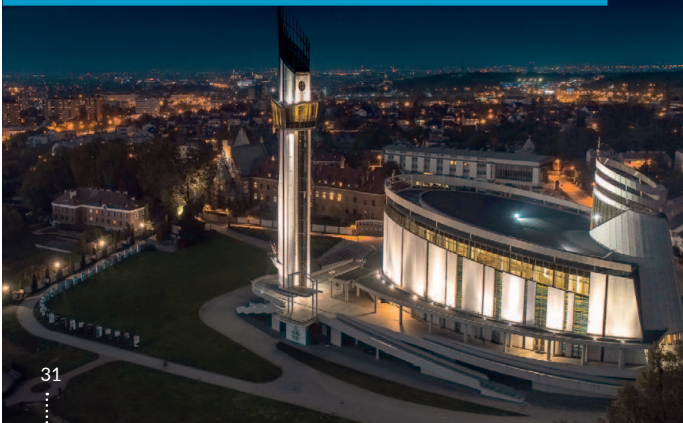
アリーナは市内中心部とノヴァ・フタの中間に位置しています。メイン広場からトラムでわずか数分で行くことができます。**スタンドには2万人以上**の席があります。色とりどりのファンで埋め尽くされたアリーナで、熱烈な歓声と非日常的な雰囲気を味わうことができるのが、選手たちの自慢の一つです。このホールでは、第 3 回ヨーロッパ競技大会や男子世界ハンドボール選手権、さらに毎年恒例の馬術フェスティバル「カヴァリアーダ」など、トップレベルのイベントが開催されてきました。**アリーナには当初から世界のロックスターやポップスターも訪れており、ソーシャルネットワークでクラクフへの魅力を送信しています。**クラクフ・アリーナでは、ピーター・ガブリエル、デフ・レパード、アイアン・メイデン、スティング、デペッシュ・モードなどのアーティストが公演を行ってきました。このアリーナは多くの会議やコングレスの会場としても利用されています。

宗教的観光

何世紀にもわたって、クラクフはポーランドの国家の中心であり、ポーランドのキリスト教の中心地でもありました。クラクフの歴史的な教会には、奇跡的な力があることで有名な絵画や聖遺物が収められています。宗教集会や修道院の古くからの伝統が育まれ、行列や野外ミサには信者の群衆が集まります。世界史に不滅の名を残した聖人、シュチェパヌフの聖スタニスラウスやヤドヴィガ女王など、数多くの聖人や福者の生涯がこの街と関わりがあります。多くの人がクラクフの教会や墓地遺跡で最後の安息の地を見つけています。この街の風土の中で、後に教皇ヨハネ・パウロ二世となり、2014年に列聖されたカロル・ヴォイティワの人格が形成されました。教皇は常にクラクフに戻り、何百万人ものポーランド人の歓迎を受けました。クラクフの中心部から路面電車で15分のところにある**ワギエフニキに聖域**があります。**ヨーロッパのこの地域最大の巡礼地の1つです**。ここは神の慈悲の信仰の重要な中心地であり、20 世紀にこの信仰を復活させた先駆者である聖ファウスティナ修道女を記念する場所でもあります。「恐れることはありません」というヨハネ・パウロ2世センターもあります。

2016年の世界青少年デーに世界中から数百万人の若者が参加したのはクラクフだったことは特筆に値します。このイベント期間中、世界各地から約200か国の人々がクラクフに集まりました。

全体主義統治の時代にも、クラクフはその精神的なルーツを忘れませんでした。「理想都市」ノヴァ・フタ建設の基盤であった無神論の概念は、住民が建てた質素な十字架に政権が敢えて手を挙げたことで破壊されました。



周辺地域

クラクフ周辺の人気の旅行先もお勧めします。観光の目的地としてよく挙げられるのは、美しいジュラ紀の渓谷、そして復元された城にヴァヴェル城博物館の分館があるオイツフとピエスコヴァ・スカラです。**アウシュヴィッツ・ビルケナウ博物館とヴィエリチカ岩塩坑とボフニャ岩塩坑などのユネスコ世界遺産**に登録されている場所は非常に人気があります。これらの場所を訪れるには丸一日を計画した方がいいというのは、よく観光プログラムの必須ポイントと言われているからです。また、この地域の木造建築物や、珍しい十字架の道がある**カルヴァリア・ゼブジドフスカの有名な景観**も同様です。巡礼者はヨハネ・パウロ二世の故郷であるヴァドヴィツェにもきっとたどり着くでしょう。

タトラ山脈の眺め

クラクフからマウォポルスカの木造建築街道に沿って旅に出てみるのもよいでしょう。これは、教会、正教会、鐘楼、別荘、野外博物館など、255点の最も貴重で興味深い歴史的木造品が並ぶ珍しい観光ルートです。そのうち8つがユネスコの世界遺産に登録されています。

ここは、ポーランドの冬の首都として知られるタトラ山脈とザコパネからわずか 100 キロメートルの場所にあります。クラクフは、より親しみやすく魅力的なピエニィニ山脈、有名な**リゾート地であるシュツァブニツァやクルィニツァ**、そして人里離れたベスキディ山脈の山道からも同様の距離にあります。ここには、タトラ、ピエニィニ、ゴルジェ、バビア・グーラの 4 つの国立公園があり、観光客を楽しませます。これらはマウォポルスカの最も貴重な自然と景観が楽しめるエリアです。

あらゆる場所で育まれた地元の伝統と幅広い観光客基盤により、この地域全体が歴史遺産と融合し、自然と触れ合いながらリラックスするのに適した場所となっています。マウォポルスカ地方は、ヨーロッパで最も興味深い地域の一つに数えられるほどの多様性を備えています。

市内の観光案内所

市内の観光案内所では、実用的なヒントや連絡先情報が記載された簡易版のシティガイドのほか、観光ルートが記載された市内中心部の地図を提供しています。

最近では、過去数十年の出来事などに関連して、景観や歴史上の理由で興味深い、伝統的な老舗ルートに街歩きの新しい提案が追加されました。

www.infokrakow.pl

住所 ul. św. Jana 2
tel. +48 533 826 409
jana@infokrakow.pl

住所 ul. Szpitalna 25
tel. +48 533 818 291
szpitalna@infokrakow.pl

クラクフストーリー ヴィスピアンスキ・パビリオン住所
pl. Wszystkich Świętych 2
tel. +48 501 238 632
kontakt@krakowstory.pl

Zgody 7
住所 Osiedle Zgody 7
tel. +48 531 942 297
zgody7@infokrakow.pl

重要な連絡先

緊急時電話番号

緊急時電話番号 (一般):112

市民警察:986

救急車:999

消防署:998

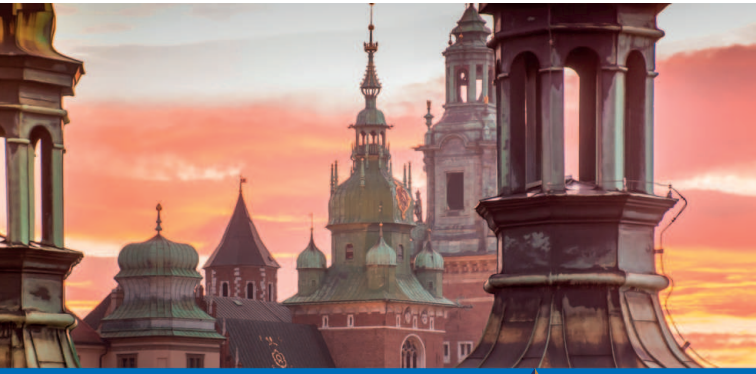
警察:997

医療情報:

tel.:+48 12 661 22 40 (24時間)クラクフ

観光ルートの説明はすべてウェブサイトに掲載されています。

www.krakow.pl



Kraków UNESCO World Heritage City

unesco
World Heritage site

Since 1978 on the UNESCO World Heritage List

www.krakowculture.pl

テキスト
グジェゴシュ・スウォンチ、メラニア・トゥタク — PODGORZE.PL協会、レシェク・J・シビラ — クラクフ市歴史博物館、イェジ・W・ガエフスキ

写真
UMKアーカイブ、プシェミスワフ・チャヤ、ラドスワフ・コヴァル、パヴェウ・クラフチク、エラ・マルヘフカ、バルバラ・ラジシェフスカ、マテウシュ・トルブス、JP II国際空港クラクフ・バリツェ (4ページ)、クラクフ市歴史博物館 (7ページ)、ヴォイチェフ・ヴァンツェル　クラクフフェスティバルオフィス (24ページ)

プロジェクト
アルトゥール・プロジョノヴィッチ (UMK)

クラクフ 2025、第 8 号
ISBN: 978-83-67818-57-5
© クラクフ市役所
観光課

無料配布資料

クラクフ市役所
観光課

住所 31–005 クラクフ
ul. Bracka 10
tel. +48 12 616 60 52
wt.umk@um.krakow.pl
www.krakow.pl

お問合せ先：
住所 31–004 Kraków
pl. Wszystkich Świętych 3-4

ISBN: 978-83-67818-57-5

United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization

Organizacja Narodów
Zjednoczonych
dla Wychowania,
Nauki i Kultury

Historic Centre of Kraków
inscribed on the World
Heritage List in 1978

Historyczne Centrum Krakowa
wpisane na Listę Światowego
Dziedzictwa w roku 1978

Krakowskie Obiekty Noclegowe w aplikacji
ekon.um.krakow.pl

KRAKOWSKIE OBIEKTY NOCLEGOWE

ウェブサイトの
リンクはこちら
から。

KRAKÓW EXPERIENCE

/KrakowExperience

@krakowexperience